

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 名張市立薦原小学校

種別 保育園・幼稚園 学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒518-0606
三重県名張市薦生1595番地

E-mail : g01_e-komo@nabari-mie.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 59 名 女子 47 名 合計 106 名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校は本年度、以下のようなテーマで各学年において、ESDカレンダーを作成し、ESDを進めてきました。

- 1年「わたしだいすき、ともだちだいすき、がっこうだいすき」
- 2年「わたしだいすき、ともだちだいすき、こもはらだいすき」
- 3年「薦原の自然や人から学ぼう～体験・発見。学びあい～」
- 4年「見つめよう、私たちの自然・地域・人権」
- 5年「私たちの住みよいくらしを考える」
- 6年「伝えよう、私の未来、私たちの未来」

多くの地域のゲストティチャーをお招きし、体験活動を重視してきました。

伝え合って学ぶことをテーマに、自分の体験したことや調べたこと、そして、考えたことなどを、ICTを使いわかりやすくみんなに表現することを重視してきました。

以下、4年生と5年生の実践を報告します。

4年生実践記録「薦原の自然について考える」

4月15日 ギフチョウ観察

伊賀ふるさとギフチョウネットワークの加納さんたちとギフチョウの観察へ行った。途中で見つけた動植物について児童たちは加納さんたちに積極的に質問していた。

(例：セイヨウタンポポとニホンタンポポの違い、スイバなど食べられる野草があることなど) 春と言うこともありたくさんの動植物を見つけることができた。ギフチョウの生息地に着くと、たくさんのギフチョウを見つける事ができた。児童から「たくさんいる」「ホントに絶滅危惧種なん」という声があがっていた。加納さんたちも「今年はたくさんいる」といっていた。加納さんたちには、観察につれてきていただいただけでなく、問題も出していただいた。内容は昆虫について基本的なものからギフチョウや薦原に生息している昆虫のことなど計20問ほどだった。最後にギフチョウが増えてきているのはたくさんの方がギフチョウを守ろうとしているからであるというお話をしていただいて観察会をおえた。後に児童から感想を聞いてみると「ギフチョウが見れて良かった。」「来年もギフチョウを見たい。」と答えていた。

5月8日 ギフチョウの卵観察

4月の観察に続いて加納さんたちにギフチョウの卵観察へ連れて行ってもらった。出発前にギフチョウの食草であるカンアオイについての説明をうけた。前回同様に道中に見つけた動植物について質問しながら観察地点へ向かった。カンアオイの卵が観察できる場所に着くと児童たちはカンアオイの葉を一枚一枚慎重に裏返ししながら卵を探していった。そして数カ所で見つける事ができた。観察後の感想では、「真珠見たいできれいだった。」「見つけられてうれしかった。」という声が聞けた。

6月26日 ニホンハナダカバチ観察

絶滅危惧種のニホンハナダカバチの観察を行った。場所は小学校の砂場である。また、加納さんたちと観察を行った。ニホンハナダカバチの雄雌の見分け方や巣の作り、食べる物など様々な生態を教えてもらい観察で確かめる事ができた。児童たちから「なんでこの砂場に巣をつくったのか。」という質問が出てきた。その質問に対して加納さんは「柔らかい砂が必要で、この砂場がちょうどよかったから」と答えてくれた。その後、児童から「こんなところに作って学校みんなにぐちゃぐちゃにされやんのかな」という声に対して、「ハナダカバチが活動している時はハナダカバチに使わせてあげて、落ち着いてからみんなが気をつけて遊べばいい。お互いに譲り合って生活するのが共存」

と答えてもらった。観察後の感想では、「絶滅危惧種の観察が砂場でできて良かった」「共存が大切だと教えてもらえて良かった」という声が聞けた。

11月4日 炭窯見学

秋の自然観察と共に、福地さんが行っている炭作りの窯を見学させてもらった。炭作りで使っている木は、家の方へ伸びてきて邪魔になった木や山の手入れをしたときの木を焼いている。必要になった分だけ切り、無駄にしないように炭にしていると話してくれた。

児童たちの中では「木を切る＝自然破壊」と思っている部分もあるため、福地さんの行っている炭焼きも自然破壊になるのではないかと考えている児童がいた。しかし、福地さんの話を聞いて「木を切る事すべてが自然を破壊しているのではない」という新しい考えを持つことができた。

薦原の自然について考える

1学期2学期と薦原の自然について考えてきた。最初はギフチョウやハナダカバチなど昆虫の観察を児童たちは楽しんでいった。しかし、加納さんや福地さんの話を聞き、自然観察をするだけでなく自然との関わりかたを学ぶことができた。自然と人との関わり方について児童は「自然を守るということは手を出してはいけないもの」と言う認識であったが加納さんたちの話を聞き、「自然を守るためには人の手が入ることが必要な時もある」と考えられるようになった。人と自然がうまくおり合いをつけていくことが「共存」であるとまなぶことができた。また、自然を守っている人は加納さんたちのように活動している人だけではなく、多くの人々の生活のなかで自然に守られているという考えにも行きついた。3Rなどのごみを出さないようにする取り組みやポイ捨てや不法投棄をしないというよびかけなど自然に行っている事が自然を守っている、つまり薦原の自然はそこに住んでいる人々が守っていると気づくことができた。そこで、自分達に何ができるのかを考えた時に児童から、「ごみのポイ捨てをしない」「3Rをする」「動植物を必要以上にとらない」ということができた。

5年生 米づくり実践記録

田植え 5月8日

5月8日（木）の1・2限目に公民館の松並さんの田をお借りし、田植えを行いました。前日の7日には、お米について松並さんからお話を聞き、田植えに期待を膨らませていたようで、当日の朝はみんなワクワクしている様子でした。田につくと地域の方に教えてもらいながら、稲を植えていきました。はじめは、慣れない手つきでしたが、徐々にスムーズに植えることができました。歩きにくい泥の中で、バランスをくずしながらも頑張っていました。よい経験ができたようです。

（感想）

- ・今日の田植えは思っていたよりとっても楽しかったし、足もとがグチョグチョでした。だからたまに足がぬげなくなるときがありました。でも友だちがたすけてくれました。松並さんにこんなにきちょうな体験をさせてもらい、とてもよかったです。
- ・きちょうな体験ができてうれしかったです。とくになえを投げてもらってキャッチをすることがおもしろかったです。
- ・なえを植えるとき、みんなはじょうずだったけど、私は少しおれたりしてはじめての方は不安でした。でもやるうちにだんだん慣れてきてだんだん自信がつかえました。初めての田植えだったけど、楽しい思い出ができたので、とってもうれしかったです。

田んぼの生き物調査 6月9日

少し小雨の降る中でしたが、実施することができました。子どもたちはJAの方から

お話を聞いた後、元気いっぱい田んぼに向かいました。田んぼではカエルやタニシなどたくさんの生き物を見つけてはうれしそうに採集していました。また、教室に戻ってからは、細かい部分までよく見て観察していました。JAの方からもたくさんお土産をいただき、とってもうれしそうにしていました。今後、生き物調査を通して、環境についての学習を深めていきます。

田んぼの生き物調べ 6月

総合の時間に、先週の田んぼで見つけた生き物について詳しく調べる学習を行っています。カエル、オタマジャクシ、タニシなど興味をもった生き物について調べていました。体のつくりを調べたり、生息地や食べ物について調べたりする中で、いろいろと発見しているようでした。「この生物は水がきれいなところにすむから、あの田んぼは水がきれいだ。」と薦原の自然環境のよさに目を向けている子もたくさんいました。

※これらの活動を元に6月12日に「稲作体験から学ぶ」というテーマで、研究授業を行った。その際、以下のような授業反省をしました。

- ・積極的に意見を言う子が多く、意欲の高まりが感じられた。実際に田植えを体験し、生き物とふれあう活動をしたことが意欲を高めることにつながっている。
- ・体験したことだけではなく、図鑑などで調べることで意欲の向上につながる。図書館を利用するなどして、子どもたちがいろいろな資料をもとに調べられるような環境があるとよい。
- ・課題が具体的でなかったので、子どもが考えにくかったのではないかと。発問の内容を吟味し、子どもたちが体験したことをもとに、考えていくような発問を考える必要があった。
- ・発表に対して「わかったこと」を答える際、個人個人の発表に対する気づきを言う子もいれば、何人かの発表を聴いて、比べたりまとめたりして気づいたことを言う子もいた。後者の気づきを大切にすることで思考力が育っていくのではないかと。
- ・思考させる時間をしっかり確保する必要があった。
- ・振り返り際には、視点を与えて書かせるとよかった。
- ・リリースをする理由をペアで考えさせた。全員が自分の考えを話し、友だちの考えを聴く機会としてペアでの話し合いも大切である。

かかし作り 7月10日

松並さんと武田さんに来ていただいて、かかし作りをしました。漢字で「案山子」と書くことや、方言で「おどし」ということを教えていただきました。作業中は慣れないカッターナイフやのこぎり、金づちを使って一生懸命取り組んでいました。完成したときには、大満足していました。

楽しかった稲刈り 9月11日

田植え、かかし作りと1学期に取り組んできた稲が実り、待ちに待った稲刈りを行いました。朝からワクワクしているのが表情から伝わってきました。田んぼにつくとまず生き物調査をしました。6月にしたときとは違う生き物がいることや、小さな見たこともない生き物がいることに驚いているようでした。その後、地域の方々の協力を得て、稲刈りがスタートしました。前日の雨で地面は少しぬかるんでいましたが、子どもたちは稲刈りに夢中でした。初めは鎌の使い方に慣れず、ゆっくりと少しずつ稲を刈っていましたが、徐々になれてくると手際よくこなしていました。50分ほど作業をしましたが、疲れた様子も見せずに「もっとしたかった」という声を聞こえてきました。

おにぎり作り 10月30日

公民館でおにぎり作りをしました。子どもたちは、自分で田植えと稲刈りをしたお米

だったので、ひとつぶひとつぶ大切にこぼさないようにお米を洗っていました。そして炊いている間は学校に戻りましたが、「炊けているかな？」とワクワクそわそわしていました。炊きあがってから、いよいよおにぎり作りです。みんなホカホカのご飯と格闘しながら一生懸命にぎっていました。できあがると、「はやく食べたい！」という声も聞こえてきました。他の学年にも、うれしそうに配っていました。自分たちでにぎったおにぎりは想像以上においしかったようでした。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）